

【英語科】

英文と日本文の比較を通じた文構造理解を図る授業モデル

長期研修員 研修員 小島 君江

研究の内容

1 英語科における思考力

(1) 英語科で育てる学力

英語科の目標は、実践的コミュニケーション能力の基礎を養うことである。実践的なコミュニケーション能力とは、単に、外国語の文法規則や語彙などについての知識をもっているだけでなく、実際のコミュニケーションを目的として外国語を運用することができる能力である。そのため、中学校段階では、異なる言語や文化を理解し、自ら進んで英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を育成しながら、特に、「聞くこと」や「話すこと」の音声によるコミュニケーション能力を重視していくことが重要である。

(2) 英語科における思考力と代表的な要素

英語科で育てる学力を基に、英語科における思考力を次のように定義した。

英文を理解したり英文で表現したりする過程において、場面や状況に応じて適切な言語材料を選択し活用する力
--

この定義を踏まえ、4領域における思考力の主な要素を次のように考えた。

ア 聞くこと

強勢・イントネーション、区切りなど、英語の音声の特徴をとらえながら聞き、話し手の意図を把握する力

話し手の意図、話の内容を把握し、話の展開から、次にどんな内容が話されるか類推する力

イ 話すこと

場面や状況にふさわしい強勢・イントネーション、区切り、声量などを意識して話す力

自分の伝えたい内容を理解してもらおうことができるように、筋道を立て論旨を展開する力

ウ 読むこと

語彙、キーワード、話の展開などから書き手の考え、意図などを理解する力

話の内容や書き手の意図を把握し、内容についての自分の考えや意見をもつ力

エ 書くこと

場面や相手の立場に応じて、身に付けた語彙や表現を駆使して、内容を工夫する力

自分の伝えたい内容を理解してもらおうことができるように、自分の考えや意見をまとめる力

2 授業モデル

(1) 授業モデルの基本的な考え方

英語科における思考力を育成するために、学習過程を「内容の理解 - 文構造の理解 - 自分の考えの表現」の一連の流れとし、題材構成をする。

「内容の理解」の過程においては、題材全体の概要をとらえさせてから、自分の考えをもたせる流れを作ること、生徒に、本文の概要を自分の言葉で確実に理解させる。

「文構造の理解」の過程においては、英文と日本文の文構造を比較しながら理解させる。


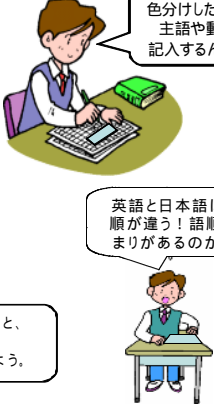
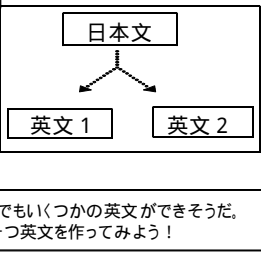
「自分の考えの表現」の過程においては、英文の内容の確実な理解と英文の文構造の理解を基に自分の考えを書かせると、内容に対して具体的な考えが正しい英文で表現できるようになる。また、教科書以外の英文に触れさせることで、さらに、内容の理解や文構造の理解が深まり、自分の考えを豊かに表現できるようになる。

この の繰り返しの指導により、意図を的確に伝えるまとまりのある文を書くことができるようになる。と考える。

また、平成18年度群馬県児童生徒学力診断テストの結果、表現の能力に課題があり、「書くこと」の領域において、文構造や文法事項の知識・理解の定着が不十分であることが分かった。

そこで、本研究では、「書くこと」の領域の指導を中心に、思考力の育成を図ることとした。そのために、語彙や文の構造を確実に身に付け、それらを活用して日常の場面や状況に適した表現を考えながら書く活動を繰り返し行っていくことが重要である。特に「書くこと」に必要な「文構造の理解」に視点を当てて指導することで、「書くこと」の思考力を育成し、英語の学力を高めていきたい。そこで、次のような授業モデルを考えた。

表1 英語科における授業モデル

学習過程	思考力のとらえ	指導の工夫
内容の理解	<p>・既習の語彙や文を駆使し、場面や状況を考えながら、本文の内容とその展開を理解する力</p>	<p>—〔ねらい〕—</p> <p>英文の並び方、日本語の並び方を比較することにより、それぞれの文構造の特徴に気付き、正しい語順で英文、日本語を表現することができる。</p> <p>—〔指導の工夫〕—</p> <p>・分かりやすい日本語にまとめるために、英文をチャンク（言葉のまとまり）に分けさせたり、各英単語に合った日本語を場面や状況に応じて選択させ、日常使う言葉で表現させたりする。</p> <p>—〔思考〕—</p> <p>チャンクに分けて考えると、文の意味がだいたい分かってきた。</p> <p>いつも使っている自分の言葉で訳してみよう！</p> 
文構造の理解	<p>・英文や日本語の文構造の特徴をとらえ、文構造の違いを理解する力</p>	<p>—〔ねらい〕—</p> <p>英文の並び方、日本語の並び方を比較することにより、それぞれの文構造の特徴に気付き、正しい語順で英文、日本語を表現することができる。</p> <p>—〔指導の工夫〕—</p> <p>・主語と動詞を意識させるために、主語は赤、動詞は青、その他は黄の付箋紙にそれぞれの単語を記入させる。（表に英語、裏に日本語）</p> <p>・英文と日本語の構造の違いを正確に理解させるために、英文、日本語の語順に従い、主語と動詞を相互に並べ替え、文を組み立てさせる。</p> <p>—〔思考〕—</p> <p>色分けした付箋に主語や動詞を記入するんだな。</p> <p>英語と日本語は、語順が違う！語順に決まりがあるのかな？</p> <p>すごい!! 英文も日本語も語順を考えると、正確な文を作ることができるんだな。語順の違いを考えながら文を作ってみよう。</p> 
自分の考えの表現	<p>・教材文の展開から、書き手の意図を理解し、自分の考えや意見を持ち、既習の語彙や文を駆使しながら、英文で表現する力</p>	<p>—〔ねらい〕—</p> <p>教材文の内容から、身近な課題を見付け、自分の考えを正しい英文で表現することができる。</p> <p>—〔指導の工夫〕—</p> <p>・自分の考えを既習事項を活用して英文にまとめる力を伸ばすために、個人で考え、グループで交流させることにより適切な表現を選択し、自身の英文に応用させる。</p> <p>—〔思考〕—</p> <p>一つの日本語でもいくつかの英文ができそうだ、もう一つ英文を作ってみよう！</p> 

ア 「内容の理解」の過程において

本文の内容の理解を少しずつ深めるために、既習の語彙と英文から概要を類推し、新出の語彙と英文から内容を正しく訳し、理解しやすい日本語でその内容が端的にまとめられるようにする。また、単に、概要が理解できるだけでなく、身近な

状況や出来事から、課題となることを取り上げ、自分の考えをもつことができるようにする。そのために、英文をチャンクに分け、各単語の意味を既習の語彙から類推し、その単語を本文の中の状況にあった言葉に置き換えながら、全文の概要をとらえ、日常使っている自分の言葉で表現するこ

とで、本文の全体の内容を正確に理解できるようにする。

イ 「文構造の理解」の過程において

自分の伝えたいことを英文として表現するとき、生徒の多くは、機械的に既習の語彙と英文をそのままの形で並べて、文章を作る。そのため、一人一人が自分が書いたという実感のない文章になってしまうとともに、一つの英単語を忘れたり語順を忘れたりすると、全く書けなくなる。しかし、自ら考えて、英文を作ることができれば、自分の伝えたいことが表現できるとともに、その表現も豊かになるはずである。そのためには、英文の構造を正しく理解することが必要であると考え。そこで、英文と日本語の文構造を比較させることにより、文構造の理解を深められるようにする。英文と日本語の文構造の違いが明らかになり、語順を意識しながら、英文や日本語を考えていくと、生徒自ら書きたい英文を考えて、正しい語順で表現できるようになると考える。英文の並び方・日本語の並び方の基本的な構造については表2のように指導する。

表2 英文と日本語の文構造の比較

【英文の並び方】 「～は」(主語) + 「～だ」(動詞) 「～は」(主語) + 「～する」(動詞) + 「～を」(目的語)(「いつ」+「どこで」) 【日本語の並び方】 「～は」(主語) + 「～だ」(動詞) 「～は」(主語) + 「～を」(目的語) (「いつ」+「どこで」) + 「～する」(動詞)
--

こうした比較により、生徒は、英文と日本語の構造には違いがあることに気付くようになる。また、英文を日本語にしたり、日本語を英文にしたりするときには、次の二つの特徴があることに気付くようにしたい。

一つの英文に対して、複数の日本語で表現できるように、一つの日本語に対しても複数の英文で表現できること。

文構造が違うので日本語における主語の省略や英文における所有格のつけたしなどがあること。

この特徴に気付くように意識して指導を継続することで、英文を日本語で表したり、日本語を英文で表したりすることは、決して難しいことではないことを生徒に感じられるようにする。また、

英文を日本語で表したり、日本語を英文で表したりする学習において、既習の語彙と英文を利用して表現するだけでなく、文構造を理解しながら伝えたい内容を考えて、英文を作る学習を展開することで、自分の伝えたいことを表現できるようにする。自分の考えを伝える文を作れるように、三色の付箋紙を活用する。付箋紙には、主語を赤の付箋紙、動詞を青の付箋紙、その他を黄の付箋紙に、表は英語、裏は日本語を記入する。主語と動詞に視点を当て、英文と日本語の構造の違いを視覚的にも理解し、正しい語順を考えられるようにする。そして、記入した付箋紙を表2の英文・日本語の並び方に従って並び替える。英文を日本語にするときは表3の手順で、日本語を英文にするときは表4の手順で行う。

表3 英文を日本語にするとき

- | |
|---|
| (1) 日本語にする英文を書く。
(2) 英文をチャンク(言葉のまとまり)に分けて、斜線を引く。
(3) 付箋紙にチャンクの英語を書く。
(4) 付箋紙の裏に、英語にあった日本語を書く。
(5) 英語の付箋紙を赤 - 黄 - 青の順番にはる。
(6) 黄付箋紙の日本語を適切な順番になるようにすると日本語ができる。
(7) 分かりやすい日本語に直す。 |
|---|

表4 日本語を英文にするとき

- | |
|---|
| (1) 英文にする日本語を書く。
(2) 分かりやすいに日本語に直す。
(主語や所有格を入れるなど)
(3) (2)の文をチャンク(言葉のまとまり)に分けて、斜線を引く。
(4) 付箋紙にチャンクの日本語を書く。
(5) 付箋紙の裏に、日本語にあった英語を書く。
(6) 日本語の付箋紙を赤 - 青 - 黄の順番にはる。
(7) 黄付箋紙の英語を適切な順番になるようにすると英文ができる。 |
|---|

ウ 「自分の考えの表現」の過程において

教材文の内容を理解し、新出の語彙と英文の文構造を理解した上で、その内容について生徒が感じたことや思ったことを書かせていく。

最初の段階では、自分の考えをまとめられるように、思いついた考えを日本語でまとめさせる。その際、既習の語彙と英文を思い出させ、既習の語彙と英文で表せるような日本語に書き換えさせ

る。次に、日本文を英文に書き換える際、場面や状況に応じた適切な言語材料を選択させていく。出されたいくつかの英文を友達と比較させながら、内容面と文構造面で不足している表現を補足

し合っていく。最後に、グループで話し合うことで、より多くの英語表現を自分の考えの中に取り入れ、自分の意図することを接続詞などを使いながら、まとまった英文で表現していく。

(2) 授業モデルの活用

表5 NEW HORIZON English Course 2年 TOKYO SHOSEKI

学習過程	Unit2 Emi Goes Abroad	Unit5 A Park or a Parking Area?	Unit7 My favorite Movie
内容の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ Green 先生と Mike、Emi の会話から 2 人のゴールデンウィークの予定を知ったり、イースター島に着いた Emi の空港での入国審査の会話からその様子を理解し、自分の言葉で表現する。 ・ イースター島に着いた絵美が見学をして、見たことや聞いたことからモアイの歴史について、要点をまとめ、紹介したことを理解し、自分の言葉で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ファックス内容を読んで、その概要を知り、駐輪場の是非について、Mike と Emi が各々の考えを述べる会話から 2 人の考えを理解し、自分の言葉で表現する。 ・ 新聞記事からその概要をつかみ、課題を見付けたり、その反対意見である新聞の投稿欄に載った意見文を読んだりしてその要点を理解し、自分の言葉で表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Sin と Judy の会話から 2 人の好きな映画のジャンルについて理解し、自分の言葉で表現する。 ・ 映画「E.T.」のあらすじと要点を理解し、自分の言葉で表現する。
文構造の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主語と動詞の間に be going to を入れ、to の後ろに動詞の原形を付けると、未来形になることの文構造を理解する。 ・ 動詞 + (人) に + (何) ものの英文構造から、主語の脱落をとらえ、命令形になる文構造を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ if 節、I think that 節は、主語と動詞が 2 つずつあるという文構造を理解する。 ・ when 節、because 節は、主語と動詞が 2 つずつあるという文構造を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較級 (...er) と the + 最上級 (...est) の文構造を理解する。また、つづりの長い形容詞や副詞の場合は、比較級 more 最上級 most を用いる文構造を理解する。 ・ good の比較級 better や最上級 best と as...as ~ の文構造を理解する。
自分の考えの表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習の語彙・英文を駆使し、学習したイースター島のことに自分で表現したい内容を付け加え、英文でまとめて説明文を書いたり、感想を述べたりして、表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習の語彙・英文を駆使し、教科書以外の教材文(新聞記事など)を読んで、意見文を書いたり、感想を述べたりして、表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習の語彙・英文を駆使し、映画を観たり物語文を読んだりして自分の好きな映画や物語の話のあらすじと要点をまとめて書いたり、感想を述べたりして、表現する。

表 1 で示した授業モデルを表 5 のような他の題材でも年間を通して、同じように活用することで、正しい英文で自分の考えを書くことができるようになると思う。

「内容の理解」の過程においては、日常の出来事や会話を単に英文を日本語にすることだけでなく日常使う分かりやすい日本語で理解しながら、その概要と要点を生徒の言葉で表現する。そして、次第に考えを深め、自分の課題を見付け、様々な人や物から多くの情報を得て、自分の考えをもてるようにする。

「文構造の理解」の過程においては、常に、英文と日本語の構造の違いから、主語と動詞(何が～した/何が～だ)に目を向けさせ、語順を考えさせていく。また、この過程で、新出の語彙と英文を繰り返し活用する活動を取り入れる。

「自分の考えの表現」の過程においては、既習の語彙と英文が使えるよう、自分の考えを自分で英文を構成しやすい日本語で表してから、文構造を理解した上で、自分自身で英文を構成する。その上に、グループ活動などを行うことで、より適切な表現を選択しながら、自分の考えを説明文・意見文・感想文などでまとめられるよにする。

実践の概要

1 指導の計画

- (1) 単元名
- ア 単元名

Unit5 [A Park or a Parking Area?]
NEW HORIZON English Course
TOKYO SHOSEKI

イ 目標

教材文の内容から、身近な課題を見付け、自分の考えを正しい英語で表現することができる。

(2) 単元の計画

学習過程	学習活動	時間	思考力のとらえ	指導の工夫	評価項目
内容の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ファックス内容を読み、既習の事項からその内容の概要を知る。 ・Mike と Emi の対話の内容からそれぞれの考えを知る。 ・会話練習カード1を使って、会話練習をする。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の事項から内容を予想し、概要を理解した後、自分の考えをもつ力 	<ul style="list-style-type: none"> ・§1・§2の話の内容がとぎれないようにまとめて概要を読み取らせる。 ・英文をチャンクに分け、場面や状況に応じて、英単語の意味を選択させながら、英文や日本語の文構造の違いに目を向け、概要を知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を駆使して、内容の概要を知り、駐輪場が必要か否かを自分の考えをもっている。
文構造の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・if 節、I think that 節の英文構造を知って、日本語にする。 ・会話練習カード2を使って会話練習をする。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・if 節、I think that 節の英文の各単語に目を向けて、日本語の文構造との比較から英文の文構造を理解すること適切な言語材料を選択し活用する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・英文をチャンクに分け、主語を赤、動詞を青、その他を黄の三色の付箋紙にそれぞれの単語を記入し、反対面に日本語を書かせ並び替えることにより英文・日本語の文構造を知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャンクに分けるなどして、if 節、I think that 節の英文構造を知り、分かりやすい日本語で表現している。
文構造の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・「もし～ならば」「私は～と思う。」の日本語構造を知って、英文にする。 ・インタビュー活動を通して、自分の考えを述べながら、会話練習をする。 ・会話練習カード3を使って会話練習をする。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「もし～ならば」「私は～と思う。」の日本語の各単語に目を向けて、英文の文構造との比較から、さらに、英文の文構造を理解すること適切な言語材料を選択し活用する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語を文節に分け、主語を赤、動詞を青、その他を黄の三色の付箋紙にそれぞれの単語を記入し、反対面に英語を書かせ並び替えることにより英文・日本語の文構造を知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャンクに分けるなどして、日本語の構造との比較から英文の構造を知り、英文で表現している。
内容の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事を読んで、その概要をつかみ、課題を見付ける。 ・新聞の投稿欄に載った意見文を読んで、その要点を知る。 ・会話練習カード4を使って会話練習をする。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の事項から内容を予想し、概要を理解した後、自分の考えをもつ力 	<ul style="list-style-type: none"> ・§3・§4の話の内容がとぎれないようにまとめて概要を読み取らせる。 ・英文をチャンクに分け、場面や状況に応じて、英単語の意味を選択させながら、英文や日本語の文構造の違いに目を向け、概要を知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を駆使して、新聞記事や新聞の投稿欄の内容を知り、自分の考えをもっている。
文構造の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・when 節、because 節の英文構造を知って、日本語にする。 ・会話練習カード5を使って、会話練習をする。 ・インタビュー活動を通して、自分の考えを述べながら、会話練習をする。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・when 節、because 節の英文の各単語に目を向けて、日本語の文構造との比較から英文の文構造を理解すること適切な言語材料を選択し活用する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・英文をチャンクに分け、主語を赤、動詞を青、その他を黄の三色の付箋紙にそれぞれの単語を記入し、反対面に日本語を書かせ並び替えることにより英文・日本語の文構造を知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャンクに分けるなどして、when 節、because 節の英文構造を知り、分かりやすい日本語で表現している。
文構造の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・「～(の)ときに」「(なぜなら)～だから」の日本語構造を知って、英文にする。 ・会話練習カード6を使って会話練習をする。 ・英作文練習をする。 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「～(の)ときに」「(なぜなら)～だから」の日本語の各単語に目を向けて、英文の文構造との比較から、さらに、英文の文構造を理解すること適切な言語材料を選択し活用する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語を文節に分け、主語を赤、動詞を青、その他を黄の三色の付箋紙にそれぞれの単語を記入し、反対面に英語を書かせ並び替えることにより英文・日本語の文構造を知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャンクに分けるなどして、日本語の構造との比較から英文の構造を知り、英文で表現している。
自分の考えの表現 - 意見文 -	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの記事(自作教材文)を読んで、内容を理解し、意見文を書く。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の事項から教材文の内容を予想し、概要を理解した後、自分の考えをもつ力 ・自分の考えを日本語でまとめ、既習の事項を駆使して、英文を組み立てる力 	<ul style="list-style-type: none"> ・英文をチャンクに分け、生徒の力に応じて三色の付箋紙を活用させ、内容理解をさせる。 ・英文を組み立てる過程で、文構造を意識させながら、個人で考えた後、グループで考えや表現を高める活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を駆使して、記事の内容を理解し、意見文の考えを自分で組み立てている。

2 実践の概要と考察

友達の妹が腕の骨を折り入院しているという

(1) 「内容の理解」の過程において

ファックスが届く場面

本題材は、次の四つの場面で構成されている。

腕を折った原因は、自転車が倒れてきたこと

で、そのことについて、駐輪場の必要性を友達と述べ合う会話をする場面

この事件から市が駐輪場を造るという決定を出し、その決定に対して様々な意見があるという新聞記事についての場面

この新聞記事を読んで、市の決定について、反対であるという人の意見が同じ新聞の投稿欄に載ったという場面

生徒が教科書の本文の内容について身近な問題から社会問題へと広がりのある考え方ができるように、～の内容を（身近な問題の内容と生徒の考え）と（社会問題の内容と一般の人の考え）ととらえ、～の内容から問題をつかみ、考え、～の内容から自分の考えをさらに深めることができるような流れで指導した。

本文の内容を理解するために、既習の語彙と英文をその本文の内容に応じて駆使し、内容を予想する。また、新出の語彙や英文の意味や使い方も予想しながら、後に、新出の語彙と英文の正しい意味や使い方を理解することで全体の内容が理解できる。しかし、生徒は、英文をピリオドまでを一つのまとまりとして見るため、長い文章になると、意味が分からなくなってしまう。そのため、内容理解に必要な個々の語彙に目を向け、一つ一つの語彙の役割や結び付きや、その語彙が文中でどの位置に配置されるかを知ること、内容理解ができると考えた。そこで、一つ一つの語彙をチャンク（言葉のまとまり）として分け、その語彙一つ一つの意味から内容を予想させた。チャンクとは、言葉のまとまりであり、生徒の力に合わせて one sentence を一単語から数単語に分けることで、文の語順に目を向けさせた。そのことで、生徒のほとんどは、一つ一つの単語やその語順に目を向けて考えられるようになった。また、正しく内容を理解したいと考え、斜線を入れて、内容を理解しようとする生徒が増えてきた。例えば、「Kumi /broke/ her arm.」では、「くみ」「折った」「彼女の腕」の日本語を組み合わせ「くみが腕を折った」となる。既習の語彙と英文をよく理解している生徒Aは、既習の語彙や英文を思い出ししながら、新出語彙や新出文を一つ一つの単語の意味から理解して、英文を直訳してから、文全体として意味をとらえていた。既習の語彙と英文を覚えているだけの生徒Bは、一文の英文を単語のまとまりとしてとらえず、一文全ての意味をとらえていたので、英文全体の概要はつかめても、

その文構造には目を向けられなかった。自分自身で和訳できるよう、チャンクに分けて考えることを指導した。両者とも教科書の本文の流れと概要をつかむことができたので、自分自身の考えを日本語でもつことができたと思う。

(2) 「文構造の理解」の過程において

文構造の理解の段階においては、新出文を取り上げ、英文と日本語の文構造の違いに目を向けて、操作活動を行いながら文構造の理解を図った。

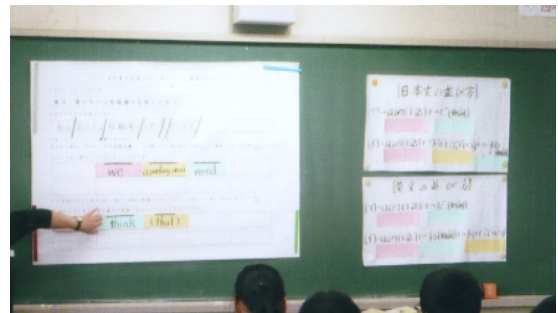


図1 文構造理解の説明

注： 英文と日本語の文構造の比較表

文構造を理解するために、図1の英文と日本語の文構造の比較を常時黒板に貼っておき、英文と日本語の文構造の違いが意識できるようにした。ワークシートと三色の付箋紙を準備し、まず、図2に示す「英文を日本語にしましょう」カードを用いた。このカードは、英文を日本語にする際の手順が分かるように作成し、ワークシート上で三色（赤・青・黄）の付箋紙を貼ったり移動したりすることで英文と日本語の関係や語順が明らかになるようにするとともに、文構造について考えながら英文を日本語にすることができるよう工夫した。



図2 【英文を日本語にしましょう】カード

「I think that we need a parking area.」を、日本語にするのは、表4の手順で行った。そのときの生徒の様子は以下のものであった。

まず、ワークシートに書かれた「I think that we need a parking area.」を読み、既習の語彙と文及び前時の話の内容から英文の内容を予想させた。しかし、一つの文が複数の単語で構成されていることは分かっているが、その単語の位置や働きや語順などの英文の文構造を考えてから全体の文を考えることはなかった。しかし、生徒Aは、各々の単語から意味を考え、日本語を並び替えて、おおよその内容(私たちは駐車場が必要だと私は思う。)の予想をした。また、生徒Bは、英語には主語が一つ、動詞が一つというきまりがあると思っていたので、I(私は)とwe(私たち)の2つの主語があることやthat(あれは)の働きが理解できず、全く文の内容が分からなくなってしまった。両者とも、thatについての新しい知識が必要であったので、「ということ」と訳し、文と文を結び働きがあることを指導した。また、文構造についても両者とも意識していなかった。意識させるために、まずは、英文をチャンクに分けてから考えることが必要であったので、チャンクについて説明した。生徒Aは、「I/think/that/we/need/a parking area./」と分け、生徒Bは、一度の説明では、理解できなかった。もう一度、チャンクについて説明した。つまり、チャンクは一単語から数単語の言葉のまとまりまで分けられるが、文構造の中心となる主語と動詞を明らかにするために、初めは一単語ずつに分けるように指導した。次第に、生徒Bもチャンクに分けられてきた。チャンクの分け方が理解できた後、文構造の中心の主語と動詞(何が~した)をとらえるために、その他のa parking areaをa/parking/areaに分けず、/a parking area/とまとめた言葉として考えることが分かりやすいということを説明した。

次に、主語と動詞(何が~した)に特に目を向けて、英文と日本語の文構造をとらえさせたかったため、三色の付箋紙を配った。付箋紙には、チャンクに分けた英単語を主語は赤、動詞は青、その他は、黄の付箋紙に書き写すことを生徒に説明した。すると、生徒Aは、すぐに、「Iは、主語だから赤、thinkは、思うだから動詞で青、thatは、何色かなあ。主語でも動詞でもないから黄色だ。weは、主語で赤...。」というように意欲的に、次々に考えを記入していった。生徒Bは、クラスの生徒の反応を見ながら自分の考えと友達の考えを比べ、一つずつ記入していった。クラス全員で確

認した時は、「Iは、私は、だから主語で、赤！thinkは、思うで動詞だから青！thatは、あれはではないので、どちらでもないから黄色！weは、主語だから赤！needは、動詞だから青！a parking areaは、後ろにあるから主語でないので黄色！」と、どの生徒も一単語、一単語ごとに考え発言していた。英文を単語ごとに分けることで、その一つ一つの単語の位置や働きに目を向けることができた。その後、付箋紙の裏に英語に合った日本語を書いた。英単語の付箋紙の裏側に対応する日本語を書き、そのままの位置で裏(日本語)表(英語)を見ることで、語順の違いに気付く、英文と日本語の文構造の違いや特徴をとらえることができた。また、一つの英単語でも、日本語では様々な表現ができるので、場面や状況に応じて日本語を選ぶ必要性を指導した。しかし、例えば「I」「we」という単語をとっても「僕」「僕ら」と訳してもよいのに、なかなか「私」「私たち」という言葉から生徒Aも生徒Bも離れられなかった。日本語らしい表現を使って工夫して伝えることで人に伝わりやすいことを再度指導した。

次に、英文の語順から日本語の語順への置換を視覚からも理解させるために、英語の付箋紙を日本語の語順である赤 - 黄 - 青の順番に並び替えて貼るように指導した。日本語の言葉だけを並べ替えるときは、生徒Aも特に考えることなく、英語と日本語の対応から、正しい日本語の位置に付箋紙を置き換えたが、英文と日本語の語順の違いを意識せず、操作をしていたので、「英語と日本語の並び方に注意してください。」と助言をした。生徒Bは、一番前に、主語の赤の付箋紙「私は」を置いてから、一番最後の動詞の青の付箋紙「思います」を、主語の赤の付箋紙「私たち」を、動詞の青の付箋紙「思います」を、その他の黄の付箋紙「駐車場」「ということ」を順に置いた。このことから、生徒Bは、一文の中に主語、動詞が二つずつ入っている感覚に馴染めなかったようであるが、英文と日本語の語順の違いに目を向け、語順を確認することができたので、今後も英文と日本語の文構造の違いを意識しながら、操作するよう助言した。最後に、組み立てられた日本語を分かりやすい自分の言葉に書き直させることで、一つの英文から様々な日本語の書き方があることを実感させた。

日本語は、「てにをは」と呼ばれる助詞が付く

言語であり、英語の単語の中には助詞が入らないので、それを補って日本語にしなければならないことは、生徒Aも生徒Bも自然に理解できている。しかし、日本語においての主語の脱落は、意識しないことが多いので、英文の中で脱落しないよう指導した。これらの指導を通して、英文を最終的に正しい日本語に書き換えていくことで、英文と日本語の文構造の違いを理解することができた。このように、日本語には、主語の脱落が見られるとか、英語には「a」「the」など冠詞が付くなどを見付けられていけば、文構造の理解も一層深まり、正しく英文が表現されたり、その場面に適切な表現がなされたりして、人に分かりやすく自分の考えを伝えることができることを指導した。生徒Aは直訳した日本語を自分の言葉で表現したが、生徒Bは直訳のままで終わってしまった。なぜなら、生徒Aは内容を十分理解し、文構造も把握できていたため、自分らしく表現することができたのである。生徒Bについては、継続して英文や日本語の文構造の指導をするとともに、自分らしい表現で伝えることを指導した。

次に、「日本語を英文にしましょう」も「英文を日本語にしましょう」と同様、「日本語を英文にしましょう」カードを用いて、ワークシート上で三色の付箋紙を操作しながら、文構造に目を向けながら活動を行った。

【日本語を英文にしましょう】カード
2年()組()番名前()

①英文にする日本語を書く。

僕は、僕たちには駐輪場が必要だと思う。

②分かりやすい日本語に直す。

私は/私達は駐輪場が必要だと思ひます。

③②の文をチャンク(言葉のまとまり)に分けて、斜線を引く。

④ふせん紙に、チャンクの日本語を書く。その際、ふせん紙の色は、主語-赤、動詞-青、その他-黄とする。

⑤ふせん紙の裏に日本語に合った英語を書く(ただし、黄ふせん紙のみ think that(私は〜だと思う)は、文庫にはある)

私は	私達は	駐輪場	必要だ	と思ひます。
私	は	私	は	私
思	ひ	私	は	私
思	ひ	私	は	私

⑥日本語のふせん紙を赤-青-黄の順番にはる。

⑦黄ふせん紙の英語を適切な順番にすると英文ができる。

図3 【日本語を英文にしましょう】カード

「僕は、僕たちには、駐輪場が必要だと思う。」を英文にするのは、イ「文構造の理解」の過程において説明した表4の手順で行った。そのときの生徒の様子は以下のようなものである。

書きたいことがあっても、どのように英文にしてよいか分からない生徒が多い実態があるので、英文が作れる実感と自信を味わわせるために、既習の英文を日本語にした例文を用いて練習した。

まずは、「僕は、僕たちには、駐輪場が必要だと思う。」を既習の英語で表せるような分かりやすい日本語に書き換えさせた。生徒Aも生徒Bもほとんど全ての生徒が「僕は」は、「私は」で、「僕たちは」は、「私たちは」と表現したことから、日常的に「I」は、「私」で「we」は、「私たち」という言葉に限定され、この言葉の方が理解しやすいことが分かった。生徒Aは、既習の文を類推し、「私は、私たちは駐輪場が必要だと思います。」と書き換えたが、生徒Bは、「私たちにとって」という表現に難を示した。これらのことから、場面や相手の立場に応じて言葉が類推できる力を培うために、一つの英文は一つの日本語だけでなく複数の日本語で表現でき、また、一つの日本語も複数の英文の表現で書けるように、様々な表現がなされることに気付かせていった。

次に、分かりやすく書き換えられた日本語をチャンクに分けて斜線を引かせた。生徒Aも生徒Bも助詞を含んだ日本語の構造を改めて感じながら斜線を引き、いくつかのチャンクに分けられた。

次に、チャンクに分けた日本語を主語は赤、動詞は青、その他は黄の付箋紙に書き写すために、三色の付箋紙を配った。「英文を日本語にしましょう」で、三色の付箋紙の使い方を十分理解していた生徒Aは、この時点で、どの日本語をどの色の付箋紙に書くかの予想をしていたので、配られるとすぐに、付箋紙に日本語を書き始めた。生徒Bは、三色の付箋紙が何を表すかを確認してから活動を始めた。どの生徒も、日本語の文構造は、ほぼ理解できていたので、日本語を付箋紙に書くことは容易にできた。そして、これらの日本語から、既習の英単語で書けるような英単語を各付箋紙の裏に書かせた。チャンクに分けた時点で、生徒Aは英文に必要な言語材料の類推ができていたが、生徒Bは、まだ十分に既習の英単語を覚えていなかったために、だいたいの英文は類推できたものの完全ではなかった。このことから、適切な表現のために随時、様々な単語も覚える必要があることを指導した。次に、日本語の付箋紙を赤-青-黄の順番に並び替えることで、英文と日本語の文構造の違いを確認させ、英文の語順を理解させていった。

このように、「英文を日本語にする」「日本語を英文にする」活動をワークシート上で三色付箋紙を操作し、実際は、頭の中で行う操作を目に見えるように操作したことで、生徒Aは以前より英

語を分かりやすい自然な日本語にすることができるようになったり、日本語を正しい語順の英文にすることができるようになったりした。また、生徒Bは初めから「分からない。」ということはずらずに、まずは、英語も日本語も一単語から考えていくことで直訳になりがちだが、英文を日本語にすることができ、以後繰り返し学習するうちに、自身の表現で表すことができるようになってきた。また、日本語を英文にするために、既習の英単語が見付けられるよう学習して覚えるようになってきた。

(3) 「自分の考えの表現」の過程において

「内容の理解」の過程から「文構造の理解」の過程を経て、様々な情報を得た後、まずは、学習した新出文について、書いたり話したりする活動を日常の場面に取り込んで活用していった。例えば、学級全体に「I think that English is easy. How about you?」という質問をすると、生徒Aは「I think that English is interesting.」と始まり、既習の語彙を使ってすぐに表せた。生徒Bは文構造「I think that English is ~.」は理解していても、英語は「難しい」とか「簡単だ」とか「おもしろい」などの言葉を駆使できない。しかし、生徒Aやその他の生徒と会話をする中で、これらの必要な単語を習得していく。生徒Bには語彙不足から十分に自分の意図している内容が伝えられないことがあったため、語彙を学習し、覚える必要があることを指導した。両者とも英文の背景を知って内容を理解することや日本語や英文の文構造を知ること、自分で、場面や状況に応じてどんな英文にするのかを考える基礎は培われてきた。また、新出語彙や英文は、繰り返し使い、会話したり書かせたりして、英文を定着させていきながら、使える英文を増やした。また、一文一文の英文を理解するだけでなく分かりやすく英文を構成し、自分の考えを述べたり書いたりすることができるために、教科書以外の教材文に触れる必要があったので、次の3つの自作教材文を作成した。それは、生徒の興味、関心のある部活動 趣味 携帯電話についての自作教材文である。長い英文ではあったが、「内容の理解」の過程で、生徒Aも生徒Bも共に、チャンクに分け各単語に目を向け、英文や日本語の文構造の違いを活用して自分の力で訳し、その概要を理解することができた。また、内容が十分理解できたので、その内容についての自分の考えをもつことができた。その後、個人が

らペア・グループへと話し合いの活動を広げながら、個人の考えと表現を広げ考えさせていった。生徒Aは、単に文章を覚えることで英文が書いていたが意欲的に日本語と英文の文構造の違いを知ることによって、正しい語順で英文を自分で作れるようになり、グループの中心として自分で作成した英文を提供したり、友達に教えたりするとともに、友達の分かりやすい表現も取り入れた活動を行っていた。生徒Bは、語順が分かることで、考えて文を作ることができるようになってきたので、さらに友達と意見を出し合い、短い文から長い英文へ文構造を考えながら英文作成を進めまとめようという傾向が伺えた。

3 実践のまとめ

生徒は、「書くこと」において、基本的な英文の文構造の理解が十分でなかったため、日本語を英文にするのに語順に誤りがあり、自分の考えを適切な正しい英文でまとめることができないという課題があった。しかし、「英文や日本語の文構造」に視点を当てた学習をしたことで、次のような傾向が見られた。

チャンクに分けたことで、各単語の働きや語順に目が向けられ、場面や相手の立場に応じて単語を選択する大切さが実感でき、繰り返し書く学習を通して書けるようになった。

三色の付箋紙を使って、主語・動詞を考えながら、主語を赤、動詞を青、その他を黄の付箋紙に書くことで、英文と日本語の構造の違いから語順が理解でき、語彙が提示されれば、並べ替えて英文が作れるようになった。

個人で考えるだけでなく、ペアやグループで話し合うことで、言語材料が増えるとともに、自分の考えを表現する上で、適切な言語材料を選択して、正しく表現することができるようになった。

「事前・事後評価テスト」の英単語を並べ替えて英文を作る和文英訳問題の解答状況を比べると、授業実践後では、概ね満足できる生徒の日本語を英文にする過程の理解度が向上したため、十分満足できる生徒がクラスの半分近くになり、指導が必要とされる生徒数も半減した。

このことから、ほとんどの生徒の書く力が伸びたことが伺える。その要因は、日本語から英文にする思考の過程において、主語や所有格などの脱落がないような分かりやすい日本語にしてから英

文を考えたこと、日本文をチャンクに分けて、英単語を選んだこと、主語と動詞に視点を当てて、英文の構造を意識して、語順を考えたことにあると考える。また、授業後に生徒が記述した感想からも手立てが有効に働いたことが分かる。(表6)

表6 生徒の学習後の感想

・チャンクに分け、三色の付箋紙を使うことで、日本文や英文の語順の違いが分かり、主語と動詞をうまく利用して、英文が作れるようになったので良かったです。

・チャンクに分けて考えると、一つ一つの単語が見えてきて、初めて見る文や難しいと思っていた文が少し簡単に見え、日本文にしたり英文にしたりすることが楽にできるようになりました。

・文の並べ方が分からなくて、間違えたことがよくあったけど、英文と日本文の違いを理解し、前よりは書けるようになりました。

・語順について意識しながら勉強を重ねるにつれて、英文を理解するのが速く楽しくなりました。

・チャンクに分けることで単語の意味や大切さが分かるようになってきたので、色々な英文が書けそうです。

まとめ

思考力を高める授業モデルの実践を通して、次の成果と課題をまとめることができた。

1 成果

「書くこと」の指導においては、文構造を意識しながら英文を日本文にしたり、日本文を英文にしたりする過程での考え方を示すことで、未知の英文でも語順に着目するため、思考を伴いながら「書くこと」の活動を容易に展開することができるようになった。

英文や日本文の文構造を考える上で、三色の付箋紙をワークシート上で並べ替える操作活動をすることで、視覚的に語順が分かるという効果があり、適切な語順の文を思考するのに役立った。

教材を一つのまとまりとしてとらえた「内容の理解 - 文構造の理解 - 自分の考えの表現」の指導過程を繰り返し、学習形態を工夫したことで、考えを次第に深めていく学習が展開され、自分の考えや意見を適切な英文としてまとめる

ことができるようになった。

以上のように、文構造を意識しながら書く力を育成することにより、聞く場面では話の概要の理解が深まったり、話す場面では迷わず、一語が発せられるようになった。また、読む場面も長い文章をチャンクに分けて、単語の意味や語順を考えることで、英文の概要を理解することができるようになった。指導者が意識して文構造の指導をすることにより、「書くこと」以外の領域における学力にも影響するものと考えられる。

2 課題

内容の理解で、英文を全体としてとらえるだけで、語彙や句、構文などのまとまりに目が向かない生徒は、自分の考えを表現するとき、応用をきかせて書くことが困難になってしまう傾向があった。そのため、各学年に応じた英文と日本文の文構造の違いの効果的な示し方を検討し、チャンクに分けて、カラーの付箋紙を用いた指導を段階的に行っていく必要がある。

英文を日本文に、日本文を英文に訳す際、単調な活動になり意欲に欠ける場合があった。そのため、興味・関心のある題材を用いたり、生徒同士で学び合うことができるような学習形態を工夫したりすることが大切である。

既習の語彙が覚えられていないために場面や状況に合った言語材料を容易に見付けられない様子が見られた。そのため、適切な語彙を選択したり、基礎的な語彙を系統的に理解したりできるようにすることが大切である。日頃から英語で日記を書かせるなど、自ら考えて英文を作る活動を意図的に設定し、語彙を活用することが有効である。

研究を通して、学力を高めていくためには、生徒の理解の仕方や速さが異なるため、実態把握を正確に行い、個々の生徒に応じた思考過程の中で、適切な教材を選択し、4領域の関わりを考えながら、指導の重点化を図り指導していくことが大切であるということを感じた。

参考文献

- ・吉田研作・柳瀬和明 『日本語を活かした英語授業のすすめ』 大修館書店(2003)
- ・小林 昭江 『英語教師の四十八手 ライティングの指導』 研究社 (1999)